

電磁波とがん



響きの杜クリニック 院長

西谷 雅史

Masashi Nishiya

座長 北西 剛

がんは生活習慣病のひとつであり、その発生には免疫機能の低下をはじめ様々な原因が知られています。従って再発を先制するためには、がんを取り除くだけではなく発生原因へのアプローチが必須です。

今回は、さまざまな発生要因の中で、環境中の電磁波の影響について考察したいと思います。人類はもともと太陽をはじめ宇宙から電磁波を浴びており、長い時間をかけて適応してきた歴史があります。しかし、文明の発展に伴い人間が作り出した低エネルギーの非電離電磁波は生活を豊かにする一方で、その急激な増加は生態系に様々な影響を与えています。これらには家電や高電圧線からの生ずる低周波による帯電から起こる間接的影響と、Wi-Fi や携帯電話から受ける高周波による直接的な影響が知られています。そして低周波による帯電は、血流の低下や筋収縮、交感神経刺激を引き起こし、だるい、疲れやすい、手足の冷え、目の疲れ、肩こり、不眠、食いしばりなどさまざまな症状を引き起こし、高周波は直接、脳に働き、腫瘍や発達障害などの影響を及ぼすことが言われています。

これらに対する対策として発生源を取り除くことは難しいものの、身体への被曝を軽減するアーシングやノイズの除去がとても有効です。

日常の電磁波の問題について理解し対策を行う事は、日常生活の QOL を上げるだけでなく、がんをはじめ多くの病気の治療につながると考えています。

略歷

1956年東京生まれ、北海道大学医学部卒業、
医療学生時代には薬害Sモン患者と活動を重ねる中で薬の恐ろしさを実感し、
漢方、中医学に薬害に取り入り、さらに西洋薬を使わない医療スタイルを
とる。気功やフラワーエッセンスを実践し、病は身体の不調から起きること
に気づき「心からだと、環境でかかるとが響き合ったときに健康になる」を
理念とした響きのワークシックスを2006年に関業し、統合医療の診療を行って
いる。そして自然の中に身を置くことが医療の原点と確信し、2021年札幌郊
外の廃校を購入し、医療を基盤とした衣食住を実践するコミュニティ「ひび
きの丘」を運営している。

所属団体等

北海道統合医療協会 代表理事
日本統合医療学会 北海道支部長
日本先制臨床医学会 理事
日本ホリスティック医学協会 理事
西野流呼吸法札幌同好会 主宰
玄心流日本拳法 師範

資格

医学博士
日本東洋医学学会専門医

[illegible]

【メモ欄】